

富士河口湖古の小径

富士山の女人禁制

富士山は古来女人禁制の山でありました。女を「不浄」と見る考えから、女性が山に登ると天候が不順になるとか、不作になるとかいわれ、この禁制は厳しく守られてきたわけです。ただ全く登拝できなかったわけではなく、北口の登山道の場合は、普通の年は2合目の御（小）室浅間社まで、60年に一度の御縁年の年は2合目にあつた行者堂で7日間の潔斎をすれば、4合5勺の御座石浅間社までの登拝が許されていました。ちなみに、この2合目の御室浅間社」は現在国の重要文化財に指定されている勝山の富士御室浅間神社本宮のことです。もとはこの2合目にあつたのですが、保存のため昭和49年現在地に移築しました。御存知の読者も多いと思います。

この2合目御室浅間社旧地のすぐ先に橋が架かっており、橋の下に御釜石が見えますが、昔はここが女性登拝の結界地になっており、これ以上の女性の登拝を禁止する「女人追立」と呼ばれた立札が立てられていました。さらに天保11年（1840）には、女人禁制の改所（調所）を同じ2合目に開設する願書が上吉田の御師から出され、許可されています。女人登拝が天保の飢饉をもたらしたとする、全く不合理な発想がこの願書提出の背景にはあつたようです。

しかし、このことは一面で、当時女性の富士登拝の希望者が多くなってきたことを物語っていると思えます。そして女性達の間では、それが許されないのなら、せめて御来光や頂上を拝したいという願いが、当然のことながら強く起きたと思われまます。

実はそのための内密の場所が富士山にはあつたのです。その場所は2合目から東南の方向にあたり、およそ3合目の高さの相当する所で、小高い丘になっており、女性達は、頂上まで登頂しない男性も（ここから富士の絶頂を仰いだのです。現在は木立に囲まれすつきりとし

た展望は得られません。当時の状況は異なつていたのかも知れませんが、こんな所から遥かに頂上と御来光を拝して富士を後にしなければならなかつた当時の女性達を思うと、その哀れさとも慣わしの不条理性をしみじみと思ひ知らされます。しかも



現在の女人天上

この場所は2合目より上に位置しましたから、当然登拝禁止の場所にあたり、ここへ来るには勇気が必要でした。多分女性達は急ぎ足で追われるようにして登つたことと思ひます。この場所は当時「女人禪定」とか「女人来迎場」と呼ばれていました。ここが現在のどこにあたるのか長い間不明になっていましたが、再発見されて、昭和55年に富士吉田市の史跡に指定され、現在は「女人天上」の名で呼ばれています。読者にも一度訪れていただきたい場所であります。

ところが、この女人禁制が崩れる端緒となる事件がおきます。慶応3年（1867）9月のイギリス公使パークス夫妻による富士登山です。

15代將軍徳川慶喜が大政奉還を上表し、江戸幕府が名目的には終わる一ヶ月前のことです。パークスは幕末史に登場する著名な人物ですが、パークス夫妻の富士登山の希望に対し、これを認めれば女人禁制を解除することにでもありますから、特に夫人の登山に日本側がどのように対処したのか、大変興味を惹かれますが、現在のところ私は知識を持ち合わせていません。後考を待ちたいと思ひます。

いずれにしても、パークス夫妻には女人禁制という禁忌は全く理解できなかったことと思ひます。夫妻は登山を決行します。2人は8日に駿河側の村山口から

おめでた・おくやみ

【9月21日から10月17日まで】

おめでた（出生）

お子さん 父 母

朝比奈一河	利美	たかみ	船津
渡邊隼弥	達也	幸子	船津
松本凌	功	文	船津
井出結子	聡	陽子	船津
山浦遥輝	純	利恵	船津
五味星陽	一成	直美	船津
小佐野禮	広	明良	船津
羽田明日香	博	正恵	船津
渡邊日瑠里	喜樹	美成子	船津
土橋寛太	司郎	直子	小立
佐藤杏胡	正一	千栄	勝山
古屋泰暉	聡士	真優子	勝山
霜村陸乃心	孝	円香	大石
堀内虹音	満	梓実	大嵐

おくやみ（死亡）

届出人

渡邊正利	74歳	渡邊徹	船津
古屋善直	80歳	古屋喜治	小立
小林紀一	64歳	小林昇	勝山
外川光明	59歳	外川和也	河口
鈴木貞雄	94歳	鈴木直光	河口
朝比奈みよし	74歳	朝比奈庄吾	西湖南
渡辺菊夫	73歳	渡辺敬枝	大嵐

おしあわせに（結婚）

登山しています。同行者は外国人が17名、警護や人足の日本人を含めると総勢100名に達しようかという多数の人達が参加しています。一行は9日に駿河側に下山したとされ、その後須走村・山中村経由で上吉田村へ来て、11日に上吉田の御師浅間坊と上文中司に宿泊し、谷村・大月宿を経て甲州道中を通って新宿へ向かっています。

パークス達の宿泊を記録した富士吉田の古文書には「ハルレー・パルクス」「レジ パルクス」と夫妻の名が見えます。ところで、パークス達がどこへ下りたのかについては必ずしも明確でないようですが、この古文書には「十一日英国人下山而泊り吉田」という一文があります。この一文からは、パークス達外国人は駿河側には下りないで、頂上を越えて11日に吉田口へ下山し、須走・山中のルートを通じて吉田へ到着していた日本人同行者と合流し、宿泊したと考えられるように思われます。

それはさておき、パークス夫人の富士登山は女性の富士登拝を拒絶する理由の喪失を意味しました。事実、同年10月には上吉田の御師から檀家の女性の富士登拝を認めるよう願書が出されています。女性登拝を認めることによる富士登拝者の増加は、御師達にとって大きな経済的魅力であったことも背景にあったと思われます。

日本各地の山岳への女人登山の禁制が撤廃されたのは、パークス夫妻の登山から4年半を経た明治5年3月の次の太政官布告によります。

「神社仏閣地に女人結界之場所所有之候処、自今被廃止候条、登山参詣可為勝手候事」

(神社仏閣地に女人結界の場所がこれまでであったが、今より廃止されるので、登山参詣は勝手たるべくこと)

参考文献：『富士吉田市史』史料編 近世

同 通史編 近世

町文化財審議会委員 中村章彦

登録文化財(建造物)全国一斉公開イベント ～井出家住宅主屋一棟を公開～

全国に所在する登録有形文化財(建造物)を一斉公開し、あわせて関連行事を開催することにより、登録文化財の存在と価値を広く周知し、制度の一層の普及・浸透を図ることを目的として行われます。

公開及び行事に関する情報は文化庁のホームページに掲載されていますが、本町では、井出家住宅主屋一棟(平成17年7月12日登録)が、つぎのとおり公開されます。

公開日：12月1日～26日(要予約)

所在地：富士河口湖町船津20

問合せ先：所有者 井出常済 72-0045

個人のお宅ですので必ず予約を入れてからお訪ねください。

文化庁ホームページ

http://www.bunka.go.jp/1osirase/20051006_bunkazai_open.html



国民年金・社会保険相談所
 問合せ先 山梨社会保険事務局大月事務所
 0554223811
 場所 河口湖商工会
 日時 12月6日(火)
 午前9時30分から午後4時

人のうきき
 10月1日現在
 ()内は前月比
 人口 24,328人 (-4)
 男 11,935人 (+4)
 女 12,393人 (-8)
 世帯 8,132戸 (+2)

今月の行政相談
 心配ごと相談日
 日時 11月20日(日)

場所	時間	弁護士相談
町交流センター	10時～14時	10時～12時
勝山ふれあいセンター	午後1時～4時	午後1時～3時
足和田出張所		

小宮 大之	渡辺 裕介	渡邊 瑞穂	外川 洋一	小嶋 孝治	澤栗 浩明	佐藤 浩史
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃
内田 明子	小池 千春	小佐野 智子	太田 彩	奥秋 直子	小野塚 敦子	関山 亜貴美
大嵐	大嵐	河口	小立	船津	船津	船津

我が家の主役

あさの そうた
小佐野 蒼汰くん
平成 16年 8月 2日 生まれ



「元気で活発な男の子です。」

健二(父)・由美子(母) 船津

なかむら あつ
中村 温ちゃん
平成 14年 11月 26日 生まれ



「歌にダンス? 元気いっぱい、我が家のミニまます。」

昌博(父)・佐知子(母) 河口

「我が家の主役」は、皆さんの家庭のかわいいお子さんを紹介するコーナーです。小学生以下のお子さんを対象に掲載しますので、掲載希望者は、申し出てください。

今月の町民ギャラリー

花仙陶芸教室

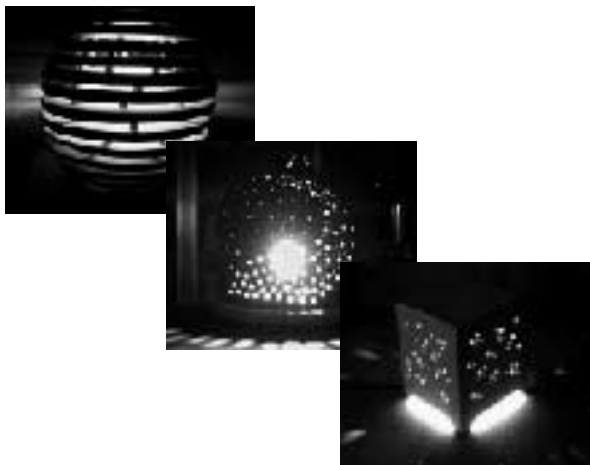
「ランタンと練込の器」展

展示期間 11月10日(木)～11月30日(水)

河口湖で、室伏栄治さん、辻優子さんが主催している陶芸教室の生徒さんの作品展です。

町在住の森喜恵子さん、太田けさ代さん、倉澤いさ子さん、加藤まさ恵さんの作品と、その仲間達の作品が展示されます。

陶器のあかりのやさしさと、練込という手法の器をご覧下さい。



松山油脂株式会社・富士河口湖工場が「パートタイマー」を募集します。

町の企業立地施策により、このたび松山油脂株式会社(本社・東京都墨田区)の船津地区への工場新設が決定しました。

松山油脂は、植物油キヌや精油を配合した洗顔用透明石けん・ヘアケア・スキンケア化粧品の製造を手がけ、そのどれもが有用性のみならず、安全と環境に配慮した製品ばかりです。



新工場(敷地面積約18000㎡、延床面積約2900㎡)は船津財産区有地の美しいカラマツ林に建設を予定し、来年2月の第一期操業に向け、透明石けんやスキンケア製品の充填包装検査を担当する20名のパートタイマーを募集します。

経験は不問で明るくチャレンジ精神に溢れた方、そして新しい工場と一緒に「ひとと自然にやさしい」製品をつくりたいと思う方を、富士河口湖新工場のオープンングスタッフとしてお待ちしております。(なお、来年4月頃にはパートタイマーの二次募集も予定しています。)

詳しい募集要項等については、松山油脂株式会社のホームページ
(<http://www.matsuyama.co.jp>)にてご案内いたします。
電話 03 3613 1334
総務経理部 幡谷、杉崎)

休日・夜間の救急医の問い合わせ先 23-4444 (富士五湖消防本部テレホンサービス)
平日 午後5時～、土曜日 12時～、日曜・祝祭日 午前8時～



ISO 14001 認証取得

地球環境にやさしい町づくりを進めています。

